

様式(細則 6-2)

7年 4月 15日

浜田市議会議長 様

議員名

牛 尾 昭

研 修 受 講 報 告 書

下記のとおり研修を受講したので報告します。

記

1. 研修名

マニフェスト・アワードコレクション2025

2. 受講の目的(市政との関連など)

SVSと選考の転換点と子ども未来新案の参画として

3. 期間(移動日を含む)

令和7年3月29日() ~ 令和7年3月30日()

4. 経費

11,220 円

(経費内訳 受講料 11,000 円、旅費 220 円)

5. 研修のポイント・議員活動や市政への反映など

上記に同じ

6. 研修内容

(詳細は別紙のとおり)



マニフェストアワードコレクション2025

令和7年3月29日、オンライン研修会

テーマ1、議会基本条例は、本当に役に立っているか？

栗山町議会、府川議長、議員の学校

H27年・H31年無投票となった。議会改革推進会議を設立「議員の学校」立上げ、計6回開催しなり手を集めた。

議員の基本や議会の役割、模擬議会など、19名が受講しうち3名が立候補し、全員当選で、無投票を阻止した。

芽室町議会、梶沢議長、議会基本条例を最大限活かした取組。

議員の政策形成、立案能力向上のための議員研修会開催。

毎月議会だよりを発行し、重要課題を市民に知らせている。

奥州市議会、菅原市長、ICT推進方針の実践。

H21年に基本条例を制定し、改定を書き込んでいたが、10年間手付かずであった。私の町は、大谷翔平を生んだという事で応援団を結成しています。私は、議長選挙にあたり五つのマニフェストを発表しました。議会の見える化などです。その他、「政策立案等」、「議員間討議」、「ICT推進方針」などの各種ガイドラインを策定し、生成AIを活用している。

江藤俊明氏、議会基本条例を動かすということは、政策形成・政策提言を総合計画や行政計画に対して行いPDCAサイクルを回すということで住民の福祉の向上に役立っているかということである。栗山町の素晴らしい所は、住民の中に入っていくという姿勢、芽室町の素晴らしい所は、議会改革のデパートと言われる所以で基本条例に沿って行動している。奥州市はガイドラインを作って、サイクルを回している点である。

テーマ2、住民を巻き込む改革のポイント

丹波市議会、谷水議長、ミライプロジェクト

福知山公立大学杉岡准教授から、「高校生」「大学生」と議会との定期懇談会の提案、一キックオフミーティングインターネットツールを利用して資料の磨き上げ一本会議場で発表一議員が質疑。

王子町議会、議会事務局長村田氏、住民・議員の行動変容。令和5年に議会事務局に出向、市民は「0.3」秒で読みたい記事を判断する。無駄な記事を掲載する必要はない。そこで、広報委員会を担当して、ターゲットとコンセプトの二つ

を決める。町民に寄り添った構成により、本会議中継などが4倍に増えた。約2千件が8千件となる。

宮崎市議会、日高副議長

新たな広報広聴への挑戦「宮崎市議会DXみやだん」

①一般質問のイラスト化②子供議会の開催③常任委員会の見える化などを通じてデジタルとリアルの融合化をなした。

令和7年3月30日、川上文浩あいさつ。

進化する政策作り

山口真一・国際大学教授：SNSと選挙の転換点

2020年の東京都知事選挙では、SNS上に小池さんの名前はなかった。ネット上の得票と現実の得票には、乖離があり小池さんが圧勝した。「政治・社会を動かすネット社会」が2024年に明らかになり、分かりやすい言葉が「正義」とか「恥を知れ」が拡散し、インフルエンサーが参入した。その参入が選挙結果を左右するまでになった。これは、メディア対SNSの勝ち負けではなく人類総メディアの時代に突入したということである。多くの人が情報発信すると、そのことがメディアの発信を大きく上回ることになる。SNS

のメリットは、政治への関心を高め裾野を広げる。SNS z
時代の選挙の課題は①正義感や対立感を掻き立て拡散②支
持者同士の対立が激化し、建設的な合意形成が進まない。

社会の分断が加速する。フェイク情報の拡散、偽の情報によ
る言論の封殺が今後の課題となる。2016年のトランプ選
挙はフェイク情報元年と言われている。生成AIの驚異

WITHフェイク2.0時代―世論工作の大衆化―誹謗中傷
の影響―誹謗中傷は、人の命を奪う―誹謗中傷は民主主義の
。をもたらす―議員はAIをどう使うか―恐れずにまず使っ
てみる―目的とターゲット層を絞る―炎上リスクへの対応
―一般市民への反論・否定を控える―組織的にガイドライン
を策定し対応する。―ブロックやミュート対応策。―中庸な
サイレントマジョリティーとのコミュニケーションを意識。

チーム安野：坪井はるか

2024年東京都知事選挙における参加型マニフェスト
安野貴博は、レベルの高いマニフェストを掲げ15.4万票
を取った。―出来栄えチェックで最高の評価を獲得50点
ブロードリスニングの手法を取り入れ、双方向のコミュニケー

ションの実現を目指した。ーテクノロジーを使い発信だけでなく受信をアップデートした。「聞く」、「磨く」、「伝える」を高速で回す参加型マニフェスト。ー「みんなの声を聞く」「みんなの案を磨く」「みんなに伝える」＝みんなが反応する。ー選挙期間中でもマニフェストを更新する。ーテクノロジーで誰も取り残さない東京へーマニフェスト変更に104件意見があり、85件実現した。全体5位であった。

横浜自民党：黒川正義：子供条例の制定・その後

今回のマニフェストは①こどもまん中社会の実現②市民と作るマニフェスト③SFプロトタイピングによるバックキャストの3点を強調して策定した。特に、「こどもまん中社会の実現」については、マニフェストの最初のページに「こども基本法の理念のもとに、こどもを守り健全に育成するための議員提案条例の制定を目指します」と書いた。1期から期までの子育て議員で、プロジェクトチームを作った。

先ず最初に、周辺地域の優れた事例の研究、若者の意見反映のための意見交換、子育て中の保護者ニーズ、障害をもつ保護者の意見など、半年かけて徹底的に議論した。結果、「横

浜市こども・子育て基本条例」とした。2024年、本会議場で86人中79人の賛成多数で条例の制定した。

考察、一日目の議会基本条例が役に立っているかというテーマでは、それぞれの議会のやり方が参考になった。ただ、浜田市議会の改選後、一年かけて見直し方針は新人議員も参加するし、理想的と思った。二日目のSNSと選挙の転換点では、東京都知事選挙を戦ったチーム安野の「参加型マニフェスト」がグランプリ受賞したこともあり、非常に参考になった。今後の選挙の転換点を安野が示した。

以上報告します。牛尾昭。